

第125回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2020年2月10日 (月) 14時～17時

兼題「春光」

- 川井素山 ○帆引網水より淡き白魚かな
ストーブ列車売子訛に匂ふ煙
春耕や畝並はるか墓一処
西郷像総身に春の光かな
- 保井寶正 ○侘助をワイングラスに投げ活けよ
しゃれめぐやストーブ列車の昼さがり
鎮魂の^{むさ}武士の雪墓碑春遠し
春光を園児の列にこぼれさす
- 佐久間喬 ○春立てりコロンの香る美術館
荒ぶ風春光弾き海揺るる
鬼やらひ妻はほどほど声高く
雨の夜のお湯割りグラス春を待てり
- 丸山酔宵子 ○春光やグラスの泡とめどなく
凍星や津軽三味線ひびく宿
視界無し雪に彷徨八甲田
寒月やスコップ三味線暴れ撥
- 吉田啓悟 ○地に触るるばかりに春を待つ柳
ティファニーへ用もなく寄り日脚伸ぶ
春めくや雷門の人だかり
春色や森羅万象動き初む
- 青木英林 ○松明に和布刈神事の浮かびおり
春光や万物笑ひ蘇へり
また一人友の訃報や凍て返る
お水取り籠りの僧の形相ぞ
- 山本草風 競走馬尻に汗して風光る
春光や葉脈透かしリトグラフ
寒声に涙が混じる花街かな
装いに少し色つく春隣
- 渡辺鯨波 ○春光やピザの宅配猛スピード
春光や女医の問診テキパキと
短日の点滴遅くなりにはけり
春めくや虎屋新作練りようかん

後藤克彦 ○節分や掌に乗り切れぬ豆の数
風邪の身に歩数少なし万歩計
暖冬に滝壺周り水満つる
春光や周りの人の声多し

永井正孝 ○春光の土手掛け上がり深呼吸
庭先の三時の休み草の餅
剪定の鋏音立て匂ひ舞ふ
春寒し飼犬縁の内に在り

原 晶如 ○石積みへ波は春光砕きつつ
山焼の焰を煽りジャズピアノ
なほのぼる凧の震へは手に腕に
海苔あぶる手は八の字を舞いにけり

佐久間たか子 ○春光やジャンボ機の腹仰ぎ見る
春光に木々の喜び聞こえたり
みどりごの喜怒哀楽に日脚伸ぶ
紅梅の香りゆたかや絵馬結ぶ

金森純女 ○梅よりも梅ヶ枝餅の香ばしき
春光や小庭に鳥の鳴きかわし
夕暮れにみかんつつきしつがいかな
ぼうたんや今年はぬくいと首揺らす

次回「萩句会」

日時 2020年3月9日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第2会議室

兼題『雪間』一句

当季雑詠 三句